

栗東市人口ビジョン・総合戦略策定のための市民アンケート調査 調査結果のまとめ

【アンケート結果】		【結果のまとめおよび考察】	【人口の安定化に必要なと考えられる事項】	
1. 年齢層別に応じた回答者の属性等				
配偶者の有無 (問2×問13)	37頁 ○20代で51%、30代で85%	○20歳代～30歳代で通勤通学のために本市に転入、婚姻し、30歳代～40歳代までに住宅を購入するライフパターンがうかがえる。		
住居の所有形態 (問2×問4)	33頁 ○20歳以降、年齢とともに持家割合が高くなる。20代では49%、30代では58%、40代では77% ○借家に居住する割合は、20代で40%、30代で31%、40代で20%である。			
居住年数 (問2×問8)	35頁 ○3年未満の階層は、20代で31%、30代で24%、40代で7%であり、若年世代での転入傾向がうかがえる。			
居住の契機① (問2×問11)	36頁 ○生まれたまちだからと答える割合は、20歳未満で59%、20代で37%、30代では18%。 ○通勤通学のためと答える割合は20歳未満で18%、20代で21%、30代では36%である。 ○地元出身者の減少と通勤通学による流入が同時に起こっていることがうかがえる。			
2. 居住の契機に関する分析				
居住の契機② (問11)	6頁 ○通勤・通学のため…28% ○結婚に際して相手の居住地…21% ○出身地なので…20% ○その他…28%	通勤・通学先 (問14-1)	12頁 ○市内…29% ○草津市…11% ○大津市…6%	
3. 本市への住み続け意向に関する分析				
現住地での住み続け意向	16頁 (問16)	現在地に居住し続けたい…56%	住み続けたいと思う理由 (問16-1)	16頁 ○住み慣れている…33% ○愛着・誇りがある…17% ○生活利便施設の充実…13%
	【住み続け意向とのクロス集計】			
	居住の契機別 (問16×問11)	48頁	○本市が出身地である層で住み続け意向が高く、通勤や通学のために居住を始めた層で住み続け意向は低くなる。	
	年齢層別 (問2×問16)	42頁	○年齢層が低いほど転居意向が高い。 ○転居意向は20代で44%、30代で30%、40代で21%。	
	居住年数別 (問16×問8)	47頁	○居住年数に比例し住み続け意向が高くなる。	
	住宅所有形態別 (問16×問4)	45頁	○借家よりも持家の方が住み続け意向が高くなる。	
	学校区別 (問16×問3)	45頁	○葉山小学校区、葉山東小学校区、治田東小学校区で住み続け意向が比較的高く、金勝小学校区、治田西小学校区では、住み続け意向が低くなる。	
子育てのしやすさの思い別(配偶者がいる方) (問13-3×問16)	60頁	○子育てがしやすいと答える層では住み続け意向が高く、子育てがしにくいと答える層では住み続け意向が低くなる。(但し「しやすい」と考える層は高い年代に多い)		
【転居意向とのクロス集計】				
16頁 (問16)	いつか転居したい…20%	年齢層別転居意向 (問2×問16)	42頁 ○20代では44%が転居希望、30代では30%が転居希望	
		転居希望先 (問16-4)	18頁 ○草津市、守山市の順 ○市内だけで検討する割合は3%	
		転居先に求める条件 (問16-2)	17頁 ○日常のスーパー、医療施設の近さ…36% ○鉄道駅に近いこと…25% ○手頃な広さ、価格の住宅…22%	
4. 生活圏、交通手段に関する分析				
買い物 (問14-2)	12頁 【日常の買い物】市内…54%、草津市…32%	○日常的に必要な主要機能は市内で充足する。 ○移動手段は、自家用車やバイクの運転が6割以上。		
かかりつけ医への通院 (問14-3)	13頁 【日用品以外】市内…24%、草津市…70%			
かかりつけ医への通院 (問14-4)	13頁 市内…73%			
5. 子育てに関する分析				
地域での子育てのしやすさ(配偶者の方) (問13-3)	9頁 ○しやすい、どちらかといえばしやすい…59% ○しにくい、どちらかといえばしにくい…14%	居住年数別 (問13-3×問8)	55頁 ○居住年数が長いほど子育てがしやすい地域と答える割合が高くなる	
		かかりつけ医への通院圏別 (問13-3×問15-4)	59頁 ○自宅徒歩圏にかかりつけ医がある層ほど子育てがしやすいと答える割合が高い。	
		日常の買い物での交通手段別 (問13-3×問15-2)	59頁 ○徒歩や自転車で日常の買い物を行う層で子育てがしやすいと答える割合が高くなる。	
子育てをしやすいするための施策として重要と考える事項 (問13-4)	10頁 ○子育ての経済負担軽減…23% ○子育てしながら働ける環境づくり…23% ○安全な子供の生活環境…17%			
6. 将来への期待と不安				
本市の将来への期待 (問17)	18頁 ①快適な住環境の整ったまち…25% ②健康づくりや高齢者に必要な施設などが充実したまち…21% ③子育て支援が充実したまち…14% ……回答者の世代割合を反映した結果とも考えられる(20代9%、30代18%、40代20%、50代15%、60代以上36%)			
本市の将来不安 (問18)	19頁 ①商業、レクリエーション施設の後退…26% ②産業振興の遅れ…16% ③交通安全対策…12%			

○20歳代～30歳代で通勤通学のために本市に転入、婚姻し、30歳代～40歳代までに住宅を購入するライフパターンがうかがえる。

○居住の契機は、通勤通学のためが最も多く、市内に通勤通学する割合が3割を占める。
○本市出身者の割合は30代まで漸減する。
⇒ 市内に企業、学校等があることは人口の流入につながるという。
○本市での居住開始当初、本市への愛着も少なく、市外への転居希望も有する傾向がある。
○市内居住者が転居を考える際に、市外を含め比較検討しており、居住地から日常のスーパーや医療施設までの近さが転居先に求める条件になっていることがうかがえる。
○通勤・通学のために本市に居住を始めた層では、転居先に求める条件に「手ごろな広さ」を求める傾向がある。(資料3参照)
○一定の商業施設は市内に充足するが、日用品以外の買い物は主として市外で行われている。本市内に「にぎわい」の中心となる機能の充実が人口増加に必要と考えられる。
○有配偶者の場合、子育てがしやすい地域と考えるほど現在地に居住し続けたいと考える割合が高くなる。
○子育てのしやすさの要因として、かかりつけ医が近くにあることや、日常の買い物の利便性があることがうかがえる。

- 【まち】
●地域の活力を生み出す人口確保・定着と地域連携により時代に合ったまちをつくる
- 【ひと】
●若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 【しごと】
●立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる